

2023 年度

講義科目名称： 国際社会学A

授業コード： 12042

英文科目名称： ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	講義	2単位	
曜日時限			
前期：月曜2限			
配当学科・学年			
日文2、人社2			
担当教員			
岡島 克樹			
添付ファイル			

授業テーマ	現在、世界では何が起きているのか、日本と世界、とくに途上国と呼ばれてきた国々とはどのようにつながってきたのか、そこから何が学べるのかを考える。【この科目はアクティブ・ラーニングの一種である開発教育のゲーム等を一部取り入れて実施する】
講義概要	1990年代以降「グローバル化」ということが日本でもさかんに言われるようになってきている。この「グローバル化」とは何かを考えることなしに、本学部が探究する「人間」とは何か、「社会」とは何かという問いを考えることは困難である。なぜなら、「グローバル化」とは、近代以降、現代にいたるまで、世界がどのような構造的な変化を遂げてきたのかに関するものであり、近代を問い直し、そこからわれわれが生きている現在を考えることを強いるものだからである。 そのため、本講義では、とくに人とモノの越境的移動の現状について学びながら、それが先進国・途上国の生活や産業にどのような影響を与えているのかを考える講義を行う。 なお、この授業では、開発教育協会（DEAR）が作成したアクティブラーニング教材（コーヒーゲーム、あぶない野菜ビデオ視聴とディスカッション、スマホから考えるわたし・世界・SDGs等）を積極的に利用し、実感のともなう理解を獲得し、また、将来、教職についた際につかえるコンテンツをつたえる授業を行う。
到達目標	多文化共生や開発教育・国際理解教育、その背景となっているグローバル化の概要を理解する。
評価方法	(1) 授業内テスト (70%) (2) 外部講師来訪時に課す小レポート (2本) (30%)
フィードバックの方法	・小レポートについては、ルーブリックをもちいて採点基準を明示し、自分のレポートのどこか強くてどこが弱いのかを学生が理解しやすい形にして返却する。 ・質問に対しては、次の授業時に全体に向けて回答・説明し、必要におうじて質問者に個別に解説を行う。
評価基準	(1) 多文化共生については、 <秀>多文化共生に関する現状や背景、政策動向、さまざまな取組について述べることも、自分とどのように関係するのかについて、具体的な例をもちいながら、豊かに語ることができる <可>多文化共生に関する現状や政策動向、さまざまな取組について述べることも、自分にひきつけて考え始めていることがうかがえる記述ができる (2) 開発教育・国際理解教育については、 <秀>開発教育・国際理解教育の歴史の変遷や実践方法上の特徴について述べることも、自分とどのように関係するのかについて、具体的な例をもちいながら、豊かに語ることができる <可>開発教育・国際理解教育の歴史の変遷や実践方法上の特徴について述べることも、自分にひきつけて考え始めていることがうかがえる記述ができる
テキスト	なし
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	(1) 「グローバル社会体験実習」でカンボジアスタディツアーに出かける学生にとって本講はスタディツアーの事前学習の一部をなすものである。そのため、スタディツアーへの参加を希望している学生は本講をかならず履修するようしてください。 (2) コーヒーゲームなど、アクティブラーニング・参加型学習手法を用いて授業を行う回もある。自分がグループに対して有する責任を自覚し、真摯に取り組んでください。また、参加型の学習手法を用いる回は教室が異なることがあるので、その際は掲示板を注意してください。 (3) 本講では、ある難民問題や多文化共生等について実際に現場で活動される方を外部講師として招き、レクチャーを行っていただくことが数回ある。その際は、その外部講師の方のスケジュールによってシラバスに書かれた授業の内容が前後することがあるので、あらかじめ了解しておいてください。

準備学習<予習・復習の時間・内容>	2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要である。30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習（復習）を目安に学習に取り組んでください。具体的には、以下のとおりである。 【予習】回によっては、参考文献を事前配布するので、その際は十分な時間をかけていねいに目をとおすようにしてください。 【復習】毎回の授業後、自宅で配布資料を読み返したり、授業中に紹介する参考図書を手し、授業理解の深化をはかってください。 【レポート】外部講師による授業の際（今年度は6月15日と6月29日）は、外部講師による授業内容が何本柱から構成されるのかを考え、授業内容を要約するとともに、そこから何を感じ考えたのかを書くレポートを課す。そのため、外部講師による授業の際は詳細にメモをし、自宅でそのメモを読み返し、報告書にまとめ、翌週の授業時に提出するようにしてください。
オフィスアワー等	月曜日1限目（個人研究室 6号館3F）（しっかりと時間を確保して対応したいので、あらかじめメール等で連絡してきてくれるとより確実である）
備考・メッセージ	
ディプロマポリシー	日文：DP4、人社：DP2
科目ナンバリング	日文：JA-E-JE2034、人社：HS-E-S22006-A34

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	講義	岡島	オリエンテーション	本講全体の学習到達目標・意義やスケジュール、ルールなどが理解できる		
2	講義	岡島	グローバル化の定義とその多様性に関する講義	本講担当者およびその他の研究者によるグローバル化の定義について理解できる		
3	講義	岡島	モノをつうじたつながりー参加型学習の実践（その1）	グローバル化のなかで生起していることをもっとも身近な「食」をつうじてより具体的に実感することができる		
4	講義	岡島	モノをつうじたつながりー参加型学習の実践（その2）	グローバル化のなかで生起していることを、もっとも身近な「食」をつうじてより具体的に実感することができる		
5	講義	岡島	モノをつうじたつながりービデオ視聴と議論	グローバル化のなかで生起していることを「貿易」をつうじてより具体的に実感することができる		
6	講義	岡島	モノをつうじたつながりーふりかえりと講義	グローバル化のなかで生起していることを「貿易」をつうじてより具体的に実感することができる		
7	講義	岡島	人をつうじたつながりー難民問題に関するビデオ視聴と解説	グローバル化のなかで生起していることについて、「人の移動」を切り口にしてより具体的に実感することができる		
8	講義	岡島	人をつうじたつながりー難民問題に関する活動事例の紹介・難民申請者との対話（外部講師）	グローバル化のなかで生起していることについて、「人の移動」を切り口にして一層具体的に実感することができる ※ただし、外部講師の方のご都合によって回が前後することは了承してほしい。		
9	講義	岡島	多文化共生社会への取組ー政府と自治体の政策動向	グローバル化のなかで生起していることについて、「人の移動」を切り口にして一層具体的に実感することができる		
10	講義	岡島	多文化共生社会への取組紹介ー学校の取組紹介	グローバル化のなかで生起していることについて、「外国人市民」「学校」を切り口にして一層具体的に実感することができる		
11	講義	岡島	多文化共生社会への取組ーNPOの取組紹介（外部講師）	グローバル化のなかで生起していることについて、「多文化共生」を切り口にして一層具体的に実感することができる ※ただし、外部講師の方のご都合によって回が前後することは了承してほしい。		
12	講義	岡島	SDGsとは何か（1）	SDGsの概要や、登場の背景とはどのようなものかを説明できる。		
13	講義	岡島	SDGsとは何か（2）	SDGsの主要性質のうち、普遍性や統合性、変革性について説明することができる。		
14	講義	岡島	SDGsとは何か（3）	SDGsの主要性質のうち、モニタリング可能性や正当性、人権重視性について説明することができる。		
15	講義	岡島	総括（授業内テストの実施と解説、学習到達目標の確認ならびに補足的説明）	本講全体をつうじた学習到達目標がどのくらい達成できているのかが理解できる。 今後、学びを深めるためにはどのようなアクションが必要か、系統だって考えることができる。		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	講義・演習	教室	1		90分×15